

## 中国法の法制度(3)「生産委託」

富山県貿易・投資アドバイザー 梶田幸雄

### はじめに

対中事業展開の1つの形式に生産委託（委託加工貿易）がある。今回は、この生産委託について簡単な紹介をする。

### 1. ある生産委託事例

H食品工業(株)（本社：富山県）は、大連で昆布巻の生産委託をしている。同社は、資本金4000万円、従業員数17名の昆布、にしん、たら等の加工食品メーカーである。大連との取引が始まったのは、平成1年に取引先の日本N商社から香港MY社の大連工場に仕事を出して欲しいとの要請があったからである。

香港MY社は、当初、大連水産局と49：51の出資比率で食品加工工場を設立し、その後大連水産局の持分をすべて香港MY社が取得したが、事業が思うに任せず、取引先が獲得できなかった。そこで、H社と香港MY社の双方を知る日本のN商社が、H社に話を持ちかしてきた。

H社の製品である昆布巻は、すべて手仕事であり、人件費が同社にとっては大きな負担であったので、香港MY社の大連工場に生産委託する検討を始めた。検討を始めたところ、同社にとっては有利な条件が揃いそうであった。有利な条件とは、第一に、(1)原材料がすべて中国国内で調達できそうであり、第二に、(2)香港MY社への生産委託であるので、特段の新規投資をすることなく事業を立ち上げることができそうであるということであった。第一の原料問題は、次のとおりである。原料には①昆布、②魚(にしん)、③かんぴょうが必要である。このうち、①昆布は中国で養殖されており、中国人は昆布を食さないために、中国需要が突然に発生することなく低コストで安定的に供給を受けることができる。②にしんは、北海道の水産会社で数の子のメーカーがアラスカからにしんを大連にもっていき、大連の工場で数の子を生産していたが、身は廃棄処分しており、H社としてはこれを有効利用することができることがわかっ

た。③かんぴょうについては、瓦房店市で夕顔を生産していることが分かったので、ここでかんぴょうを生産してもらいようにした。こうして、同社の大連における生産委託は始まった。

昆布巻を冷凍食品にして日本に輸入したのは、同社が初めてであろうと、同社社長のH氏はいう。2004年の日本の昆布巻の輸入は2100トンであるが、このうち同社の輸入は500トンにのぼる。事業は順調だが、これまでに全く問題がなかったとか、今後も問題はないということはない。当初は、技術指導が大変であった。社長H氏が、1ヶ月のうち半月ほど大連に行き、技術指導することが約半年間続いた。今では、同社の製品の一部分が抜き取られ、どこかに転売されているような節もある。半製品として輸入しているし、原材料等の調達はすべてMY社の責務であるので、同社としては大きな損害はないといえるが、不信感は禁じえない。日本に半製品を輸出する際に、冷凍させた昆布巻の袋に氷もつめ、重量のごまかしもなくはない。

それでも最近では、衣料品ばかりか機電製品、IT産業でも中国で生産を委託できる工場を探し、技術指導し(ISO9000シリーズを取得している企業が増え、日本のメーカー、商社などによる生産委託受注により技術水準も向上している。)この工場と委託加工貿易を行うという取引形態が見直されている。合弁企業などを設立する直接投資より投資金額が少なく、この分だけ柔軟な対応ができ、リスクが軽減できるというメリットが見直されている。

### 2. 生産委託の可能性

#### (1) 生産委託の現状

中国における生産委託は、1978年の「対外加工組立業務を展開する試行弁法」により開始された。そして、1979年には前記の試行弁法に代わるものとして「委託加工および中小型補償貿易を対外的に展開するための弁法」が公布、施行され、中国における生産委託が本格的に始まった。

中国においては、このような取引形態を委託加工貿易と呼ぶのが一般的である。

1999年5月27日施行の「加工貿易審査認可管理弁法」第2条第1項によれば、「加工貿易とは、国外から全てかまたは部分的に原材料、補助材料、部品、電子部品、包装資材（以上を「輸入原材料部品」という。）を保税で輸入し、国内の企業が加工組立後、その完成品を再輸出する経営活動であり、材料無償支給（来料）加工と材料有償支給（進料）加工を含む」としている。

商務部の統計によると、1979年には僅か2.35億ドルでしかなかった加工貿易輸出額が、2004年3,280億ドルに達している。現在、日中間では貿易総額の60%程度が加工貿易なのではないだろうか。

表1 加工貿易の現状（2004年）

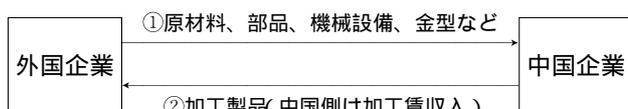
貿易方式	輸出		輸入	
	金額(億ドル)	前年比%	金額(億ドル)	前年比%
総額	5,933.7	35.4	5,614.2	36.0
一般貿易	2,436.4	33.9	2,482.3	32.3
加工貿易	3,279.9	35.7	2,217.4	36.1
来料加工	685.7	26.4	537.2	37.4
進料加工	2,594.2	38.4	1,680.2	35.7
その他貿易	217.4	49.0	914.5	46.9

（出所） 商務部統計 <http://gcs.mofcom.gov.cn/tongji.shtml>

## (2) 生産委託の概要

生産委託は、主に外国側が原材料、部品、さらには場合によっては設備などを中国側に提供し、中国側工場が外国側の要求基準に基づき製品の加工、組立を行い、この製品を外国側の販売に供するために交付し、中国側はその加工賃を得るというものである。外国側が設備を提供する場合は、中国側の加工賃をもって設備代金に充当する。この委託加工貿易には、いろいろな形式が考えられるが、一般的には輸入される原材料、部品などと輸出される製品を各々評価し、その価格を決定し、各々契約書を締結、中国側はその加工賃との差額を取得し、設備の輸入がされた場合には、その代金は加工賃をもって償還するというものである。

この取決め内容を簡単に図示すると、以下の通りである。



なお、生産委託には、上記の原材料・部品などを供給して加工するもののほかに、サンプルを提示し加工を委託するもの（この時の必要原材料などはすべて、中国側が国内で自ら調達する。）がある。

## (3) 生産委託の形態

中国は、以下の3つに委託加工貿易を類型化している。

### ① 来料加工

来料加工は、外国企業が一定の原材料、補助材料、部品、デバイスおよび包装材料を提供し、さらに必要な場合には、若干の設備、儀器、工具、金型などを提供し、中国の企業が外国企業の要求する品質、規格に基づき加工し、完成品を生産した後、外国企業にこれを販売するというもので、中国企業が外国企業から約定した加工賃を得る一種の貿易形式の取引である。外国企業から提供された設備、儀器の代金は、中国企業が加工賃の中から償還したり、別途契約を締結したりしているのが一般的である。

この来料加工には、以下の2種類がある。

#### a. 帯料加工

これは、外国企業が一部の原材料などを提供し、中国企業が現地の原料や補助材料などを利用し、これを加工し完成品を生産した後に外国企業から加工賃および原料費の支払を受けるというものである。

#### b. 進料加工

これは「進料加工復出口或以進養出」（原材料などを輸入し加工後再輸出するか、または輸入をもって輸出を育成する。）といわれるものである。中国企業が、自らの外貨で外国から原材料などを購入し、加工した後、これを輸出するというもので、その特徴は、原材料の輸入、設備の輸入および製品の販売などは、すべて中国企業の責任において行うというものである。

### ② 来様加工

来様加工は、外国企業が、仕様、柄、規格、品質、数量などの要求を指示し、中国企業がすべて現地の原材料などを用いて、自らの加工設備および工具を用いて、製品を生産し、これを外国企業に販売するというものである。

### ③ 来件組立

来件組立は、外国企業が中国企業に組立に必要な部品、デバイスなどを提供し、中国企業が外国企業の要求に基づいて、組立を行い、製品を外国企業に販売するというものである。中国企業は、外国企業から約定した組立費および加工賃を得る。

今回は、(1)生産委託のメリット・デメリットの比較、および(2)生産委託契約の概要と留意事項について紹介する。